

2011年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011年5月9日提出

1. 研究プロジェクト名	DH手法を取り入れた日本の美術工芸品研究プロジェクト	
2. 研究プロジェクト代表者	赤間 亮	
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間	2011年 4月 ~ 2012年 3月	
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	赤間亮	立命館大学大学院文学研究科・教授
特別招聘教員		
研究員	倉橋正恵	衣笠総合研究機構
客員研究員	岡本隆明	京都府立総合資料館・学芸員
PD	前崎信也 金子貴昭	立命館グローバル・イノベーション研究機構・PD 衣笠総合研究機構・PD
RA	斎藤ちせ 加茂瑞穂 ピンチク・モニカ	立命館大学大学院文学研究科・D3 立命館大学大学院文学研究科・D3 立命館大学大学院文学研究科・D3
学内研究協力者		
その他		

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

型紙・図案部門（加茂）

海外の型紙コレクション、ARC型紙資料の調査、DBへのmetadata蓄積。また、職人ら関係者への聞き取り調査。2010年度購入分型紙の資料整理、所蔵元の聞き取り調査。

<学会発表、論文執筆予定>

10月 IAJS(京都女子大学)(加茂)

漆器部門（ピンチク）

漆器データベースの画像とメタデータの拡充。輸出用漆器と国内用漆器の比較研究、金粉・材料分類、京都漆器の調査。

日本漆工芸事典の完成に併せて、ワークショップを開催「日本漆器研究の新たな可能性について」

2009年からの調査をまとめ、博士論文を提出する。「Eighteenth-century Japanese export lacquer re-applied in European furniture and jewellery」

<学会発表、論文執筆予定>

5月14日 JADS（京都、立命館大学、ARC）

5月21日 じんもんこん（京都、同志社大学）

8月24日 EAJS学会 Tallin（EAJS 2011 Visual Art Subsection: "Rethinking the development of style in Japanese art: tools and materials as catalysts" panel）

11月 DH-JAC（京都、立命館大学、ARC）

2月 Royal Asiatic Society (London)

陶磁器・竹工芸部門（前崎）

日本陶磁器データベース、日本竹工芸データベースのデータを拡充する。これまでの研究成果を踏まえて、記録方法（撮影技術）の標準化を目指す。

<学会発表、論文執筆予定>

（掲載決定済論文）

Shinya Maezaki, 'A Legacy of Matsubayashi Tsurunosuke in St Ives: Introduction of the Art of Japanese Ceramic Making to the British Studio Pottery', *East & West: Beyond Boundaries: East & West Cross-Cultural Encounter*, Cambridge: Cambridge Scholars Publishing, December 2011.

Shinya Maezaki, 'Meiji Ceramics for the Japanese Domestic Market: Sencha and Japanese Literati Taste', *Transactions of Oriental Ceramic Society*, Volume 64, London: Oriental Ceramic Society, July 2011.

（投稿済論文）

Monika Bincsik, Shinya Maezaki, Kenji Hattori, 'Digital Archive Project to Catalogue Exported Japanese Decorative Arts', *TELDA 2011*, Taiwan: Academia Sinica

（投稿予定論文）

ピンチク・モニカ、前崎信也「日本工芸データベース 在外コレクション所蔵作品を中心とする画像データベース構築について」『第90回人文科学とコンピュータ研究会報告』情報処理学会

前崎信也「明治・大正期における清国市場向け日本陶磁器とその意匠について」『デザイン史論』意匠学会

前崎信也「対清貿易における神戸港の役割について 明治期の日本陶磁器輸出を中心に」『美術史論集』神戸大学

前崎信也「日本製陶技術の西漸 1920年代初頭におけるリーチ・ポタリ での松林靄之助の活動を中心に」『美術史』美術史学会

前崎信也「1900年代初頭にソウルで販売された日本陶磁器」『陶説』日本陶磁協会

前崎信也「初代宮川香山によるフィラデルフィア万博出品作について」『陶説』日本陶磁協会

前崎信也、コラ・ウーメル「ドレスデン国立博物館蔵の1900年パリ万博出品日本陶磁器」『陶説』日本陶磁協会

(研究発表決定済)

ピンチク・モニカ、前崎信也「台湾eラーニング・デジタルアーカイブプログラム (TELDAP) に  
5月14日 JADS (京都、立命館大学、ARC)

ピンチク・モニカ、前崎信也「台湾eラーニング・デジタルアーカイブプログラム (TELDAP) に  
ついて」アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会研究会 (第108回)

5月21日 じんもんこん (京都、同志社大学)

ピンチク・モニカ、前崎信也「日本工芸データベース 在外コレクション所蔵作品を中心とする  
画像データベース構築について」『第90回人文科学とコンピュータ研究会報告』情報処理  
学会

日本工芸データベースを中心に、ピンチク、前崎共同研究活動

研究発表

8月24日 EAJS学会 Tallin (EAJS 2011 Visual Art Subsection: "Rethinking the development of style in Japanese art: tools and materials as catalysts" panel)

Maezaki: Weaving bamboo into the history of Japanese art: the present state of Japanese bamboo art research

Bincsik: Golden styles of Japanese calligraphy paper and lacquer art: the technical development of gold leaf and metal powder application

(投稿済)

Monika Bincsik, Shinya Maezaki, Kenji Hattori, 'Digital Archive Project to Catalogue Exported Japanese Decorative Arts', *TELDAP 2011*, Taiwan: Academia Sinica

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
4月1日	ハワイ大学アウトリーチ校所蔵日本陶磁器撮影(前崎) (実施済、150,000円：大航海プログラム)	ハワイ大学
4月-5月	人蔵竹工芸コレクション撮影(東京)(前崎) (30,000円：若手研究者助成金)	東京
7月-8月	ドレスデン国立博物館、スコットランド国立博物館、ハンブルグ装飾工芸博物館、個人コレクション(英国)撮影等(前崎) (800,000円：ITP)	イギリス・ドイツ
9月-10月	London, Victoria and Albert Museum, British Museum 撮影(ピンチク)。	イギリス
4月-3月	(随時)型紙閲覧システム、図案閲覧システムへのメタデータ蓄積(加茂)	ARC
5月-3月	(随時) 2010年度購入分型紙の整理・デジタル撮影(一部) 資料整理(ナンバリング含)代：160,000円 デジタル撮影代：150,000円、修復代：50,000円 計：360,000円	
6月	型彫師への聞き取り調査(加茂)	東京
12月頃	Workshop「日本漆器研究の新たな可能性について」(ピンチク)	ARC